

変化する需給動向への対応「豚肉サプライヤーのブランド戦略」

豚肉の新家畜改良増殖目標

農水省生産局畜産部畜産振興課・松本室長にきく

農林水産省はおおむね5年ごとに「家畜改良増殖目標」を定めており、ことし3月、豚についても10年後の新たな改良増殖目標が策定された。近年、豚肉の国内需要は増加傾向で推移する中、国産豚肉の生産は伸び切らず横ばい傾向で、海外からの輸入が伸びたことにより豚肉の自給率は50%を割り込んでいる。TPP11、日欧EPA、日米貿易協定の発効による関税削減も進んでいく中、国内では国際化に対応した一層の生産コストの削減、安定供給に向けた増産体制の構築が求められているところ。そうした中、新たな家畜改良増殖目標では、豚の繁殖能力や産肉能力の改良、また多様化する消費者ニーズにこたえるため、食味面で輸入豚肉との差別化を図られる国産豚肉生産が必要と指摘。今後、種豚生産者

の連携を強化、遺伝的能力評価を活用し、繁殖性や増体性などに着目した改良を進めることや、脂肪交雑など肉質の改良および改良成果の普及を推進する対応方向が示された。一方、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う肉需要の拡大もあって、国産豚肉の需要は一層高まっており、今後も堅調な消費が続いていくと見込まれる。新たな家畜改良増殖目標に基づく取り組みを進め、輸入豚肉との競合に負けない効率的な国産豚肉の生産や、国産豚肉の品質の向上を図り、豚肉の国内需要の高まりに対応した安定供給が求められている。ここでは、家畜改良増殖目標の作成に携わった農水省生産局畜産部畜産振興課畜産技術室の松本隆志室長に話をきき、同目標の意義、現在の畜産情勢を踏まえた進捗状況などをきいた。

10年後見据え改良

繁殖・産肉・食味向上へ

「家畜改良増殖目標」について、豚をつくるの意図と全体的な概要について、簡潔に教えて下さい。

家畜改良増殖目標は、農林水産大臣がおおむね5年ごとに定める農業全体の計画「食料・農業・農村基本計画」と整合性をもちて作成された、家畜改良増殖法に基づき、その先の消費者がどういった豚肉を求めているのか、などについて有識者と議論を繰り返して、目標を作成している。今後望むべき国産豚肉の姿を踏まえ、種豚に必要能力を整理したものが、家畜改良増殖目標となる。

「目標の中で、とくに重要なポイントは何か。」

このように、純粋種豚の能力向上によって肉豚の出荷日齢を平均188日から180日に短縮、

「繁殖能力の向上として、1腹あたりの育成頭数を、ランドレース種は10頭から11・2頭、大ヨークシャー種は9・8頭から10・8頭に引き上げる。一方、肉豚の産肉能力の向上として、1日平均増体量をデューロック種は981gから1070gとする目標値を掲げている。」

「おいしさに強みのある豚肉づくり」について、肥育豚生産用母豚の1腹あたり年間産乳頭数を22・8頭から25・8頭に向上させていく。

「おいしさに強みのある豚肉づくり」について、肥育豚生産用母豚の1腹あたり年間産乳頭数を22・8頭から25・8頭に向上させていく。

「5年ぶりの家畜改良増殖目標策定となり、この間に国産純粋種豚改良協議会が設立されました。今回の目標は新たに協議会についても触れられていますが、同会設立の背景および期待などについて教えてください。」

これまで、各都道府県、民間種豚生産者など、国産豚肉の輸出で、海外産豚肉との競合の観点から取り組みがなされてきた。それにより、家畜のストレスや疾病を減らすことが重要であり、結果として、生産性の向上や安全な畜産物の生産につながる。また、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた家畜の飼養管理の普及を進めている。

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

純粋種豚協議会を設立

統一能力評価の確立へ

肉質が良いものがほしい、良増殖目標策定となり、この間に国産純粋種豚改良協議会が設立されました。今回の目標は新たに協議会についても触れられていますが、同会設立の背景および期待などについて教えてください。」

これまで、各都道府県、民間種豚生産者など、国産豚肉の輸出で、海外産豚肉との競合の観点から取り組みがなされてきた。それにより、家畜のストレスや疾病を減らすことが重要であり、結果として、生産性の向上や安全な畜産物の生産につながる。また、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた家畜の飼養管理の普及を進めている。

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

人工授精の実施上昇

受精卵移植技術を開発

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25

「家畜改良増殖目標」について、海外の養豚先進国と比べて劣っている点、また、繁殖能力については、養豚先進国であるデンマークと比べると、わが国の年間分娩回数数が2・25



「10年後を見据えた豚づくりが必要だ」と説明する松本室長

いる。人工授精は能力の高い雄豚の精液を効率的に使うことができ、併せて家畜防疫上のリスクも軽減されることから、いままで以上の普及が望まれる。

このほか、独立行政法人家畜改良センターが開発した技術で、実用的な胚移植技術の普及も進める必要がある。簡易なガラス化胚加温法と子宮体部非外科的移植を組み合わせたもので、いわゆる受精卵移植だ。



「今後の種豚に必要な能力を整理したものが、家畜改良増殖目標」と松本室長

「今後の種豚に必要な能力を整理したものが、家畜改良増殖目標」と松本室長

「今後の種豚に必要な能力を整理したものが、家畜改良増殖目標」と松本室長

繁殖能力の高い豚づくり

・1頭の母豚からより多くの子豚が生まれ、子豚が元気に育ち出荷できるよう母豚の能力を向上。

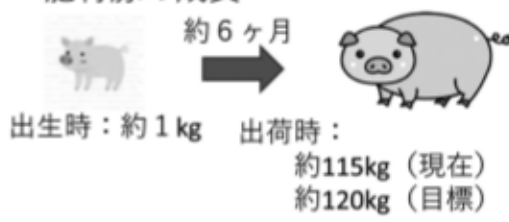


特に、大ヨークシャー種、ランドレース種について、産子数を多くすることに加え、生まれた子豚の育成率の向上も推進。

早く大きく育つ豚づくり

・生産コストの半分以上を占める飼料費を低減する観点からも増体性を改良。

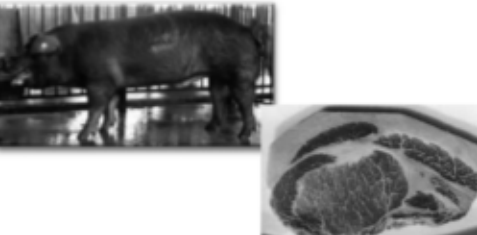
肥育豚の成長



すべての品種(純粋種)について、増体性を改良し、生産コストを低減。

おいしさに強みのある豚肉づくり

・ロース芯における脂肪交雑(霜降り)等食味に関連のある形質を改良。



主に止め雄として利用されるデューロック種におけるロース芯への脂肪交雑を向上。肉質の評価手法等の開発・普及。